



夏休み明け、子どもたちの学校生活がスタートしました

校長 尾後貫 智

夏休みが明けて、先週からまた子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。25日の夏休み明けのナマステの会では、新たに8名の転入生を迎えることができました。

7月には恒例のBBS校が本校を訪れて交流する「ようこそ! JAPAN☆DAY」を予定しています。当日に向けて、各学年ごとに日本の文化を紹介する準備をしていきます。また日ごろ学んでいる英会話の成果を発揮して、BBSの子どもたちへ英語で挨拶したり、活動の説明をしたりします。この国際交流活動は、同年代のインドの子どもたちと直接ふれあう体験活動であると同時に、日本の文化について子どもたちが改めて再認識する活動でもあります。海外で生活している今だからこそ、異文化に直接触れながら、自分の国の文化をあらためて知るよい機会となると考えています。

話は変わりますが、先月の初めにはインドと隣国パキスタンとの間の紛争が拡大しそうになりました。また、今月はイスラエルとイランとの間で互いに攻撃し合い、現在一時停戦しているものの、その緊張状態が続いています。もちろん、これには歴史的背景や政治的思惑など複雑な国際関係が絡んでいることは、まちがいありません。しかし、教育の視点で捉えるならば、私は次のように考えています。世の中の争いごとや揉めごとは主に三つの要素から起こるものです。一つ目は『言った』『言っていない』、二つ目は『やった』『やってない』、三つ目が『聞いた』『聞いてない』です。これらはすべてコミュニケーションによる話したこと・聞いたことの認識の違いから起こってくるものです。つまりコミュニケーションが正しく取れないと争いごとが絶えないのは、古今東西の歴史をみても明らかです。ですから、これから生きる子どもたちには、コミュニケーション能力を育成することと、異文化理解に基づく共生の価値観をしっかりと持って欲しいと願ってやみません。

そう考えると、教室での子どもたちどうしが話し合っ合意形成を図るための話し合い活動の経験や現地校との国際交流活動体験はとても大きな意味があるように思います。

明日からは、7月に入ります。雨期に入り、蒸し暑さが一段と増してきましたが、子どもたちへは、こまめに水分補給の声をかけ、熱中症にならないよう元気に学校生活を送らせていきたいと思っています。



6月のトピック



夏休みが明けました。新しい仲間も増えて再スタートです！

5月にインドと隣国パキスタンの軍事行動が起きて不安が残る中で、夏休みを迎えましたが、休業中は特に事故や事件などの情報もなく、子どもたちも元気に学校に戻ってきました。再開日の25日には、8人の転入生があり、恒例のナマステの会で温かく迎えました。



標準学力検査（CRT）の結果を返却しています

先日、標準学力検査の結果がきて、個人票を各児童生徒に渡しています。このテストは、学校の教育活動の成績とはなりませんが、各学年での自分の到達度や学習面の長所・短所の参考になります。ぜひ、ご家庭でもよくご覧になり、お子さまの今後の学習に役立ててください。また、夏休み早々にあった英検一次の結果もお返ししています。



～ 通訳職員の異動について ～

昨年7月から勤務していた通訳のスリシティ・タネジャさんが、日本のJETプログラムに見事合格して、7月半ばから日本に行きます。北海道小樽市の小学校や中学校で、外国語指導助手（ALT）として、英語の授業で日本人の先生をサポートします。7月1日の午後からは、後任の通訳がきます。

素敵な思い出をありがとう！みんなと過ごした日々を忘れません。日本からも応援しています。また話しましょう！

< 児童生徒数 > ※ 6月30日現在 スーリヤ生数は交流学級に計上しています。

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	スーリヤ	計
男子	3	13	14	19	18	12	12	15	13	(4)	119
女子	24	17	16	11	14	21	11	12	13	0	139
計	27	30	30	30	32	33	23	27	26	(4)	258